

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第50週 (12/12-12/18) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		50週	49週	48週	47週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	17	18
	眼科	5	5	5	4
	インフルエンザ*	28	28	27	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	注 意 報	千 葉 市				千 葉 県
			12/12-12/18	12/5-12/11	11/28-12/4	11/21-11/27	12/5-12/11
			50週	49週	48週	47週	49週
小 児 科	RSウイルス感染症		5 0.28	6 0.33	6 0.35	0 0.00	35 0.26
	咽頭結膜熱		3 0.17	3 0.17	1 0.06	1 0.06	46 0.34
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		42 2.33	46 2.56	44 2.59	27 1.50	535 3.96
	感染性胃腸炎	★★◎	430 23.89	357 19.83	293 17.24	264 14.67	3,089 22.88
	水痘		8 0.44	8 0.44	13 0.76	5 0.28	60 0.44
	手足口病		13 0.72	17 0.94	17 1.00	16 0.89	96 0.71
	伝染性紅斑		3 0.17	2 0.11	2 0.12	2 0.11	16 0.12
	突発性発しん		9 0.50	8 0.44	10 0.59	15 0.83	42 0.31
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	6 0.04
	ヘルパンギーナ		1 0.06	0 0.00	0 0.00	0 0.00	12 0.09
	流行性耳下腺炎		6 0.33	3 0.17	8 0.47	7 0.39	68 0.50
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	○	117 4.18	108 3.86	93 3.44	37 1.32	713 3.32
眼 科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		4 0.80	4 0.80	1 0.20	0 0.00	19 0.56
基 幹 定 点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		1 1.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	15 1.67
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		1 1.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(10件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	画像診断	結核	女性	40歳代	IGRA検査
結核	男性	40歳代	画像診断	結核	女性	80歳代	画像診断等
結核	男性	60歳代	画像診断等	急性脳炎	女性	10歳未満	高熱
結核	男性	60歳代	画像診断等	後天性免疫不全症候群	男性	30歳代	血清抗体の検出
結核	男性	70歳代	画像診断等	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	40歳代	病原体の検出

・第50週は、結核7件(232)、急性脳炎1件(30)、後天性免疫不全症候群1件(8)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(28)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第50週のコメント

<感染性胃腸炎> 前週より増加し23.89となり、流行発生警報開始基準値を上回った。過去10年の同時期と比べると多い。

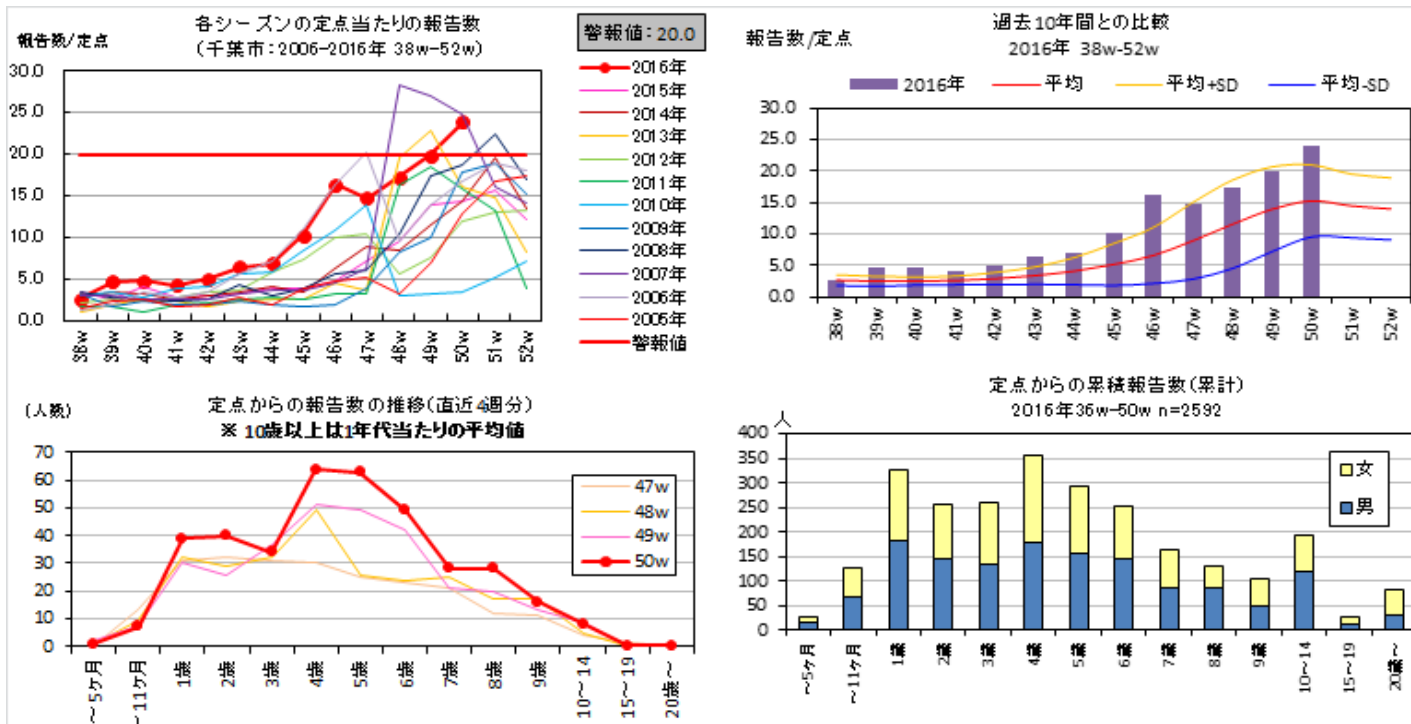
<インフルエンザ> 前週より増加し4.18となった。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベル。

■ トピック ■

< 感染性胃腸炎 >

全国レベルの第49週は過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、山形県、宮城県、埼玉県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の第50週は、前週より増加し23.89となり、流行発生警報開始基準値(20.0/定点)を上回りました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(34.0/定点)で流行発生警報開始基準値を上回り最多で、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。その他、花見川区以外の全ての区で流行発生警報開始基準値を上回っています。

今シーズンである2016年第36週から第50週までの累積報告数(n=2592)によると、性別では男性が54.2%(1404名)、女性が45.8%(1188名)で、年齢階級別では4歳(13.7%:355名)、1歳(12.6%:327名)、5歳(11.3%:292名)の順に多くなっています。



< インフルエンザ >

全国レベルの第49週は、過去9年の同時期と比べると2009年のパンデミックを除き多くなっています。都道府県別では、栃木県、沖縄県、岩手県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同じとなっています。千葉市の第50週は、前週より増加し4.18となりました。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。区別の発生状況は、中央区(5.5/定点)で最多となっており、同区の10歳代前半及び40歳代で最も多く、一年代当たりでは9歳で最も多く発生報告がありました。

今シーズンである2016年第36週から第50週までの累積報告数(n=428)によると、性別では男性が51.6%(221名)、女性が48.4%(207名)で、一年代当たりの年齢階級別では7歳(7.2%:31名)、8歳(5.8%:25名)、5歳(5.4%:23名)の順に多くなっており、20歳未満は全体の66.8%、10歳未満は全体の37.9%となっています。

※2009-2010年のパンデミックは割愛しています。

